

強者戦略

2025年度 京大地理 第5問 [問題編]

今回は 2025 年度の京都大学の第5問を解説したいと思います。京大を地理選択で目指す受験生なら避けては通れない地形図問題です。様々なバリエーションがあり、過去問学習が功を奏する分野ですね。典型問題が多く解きやすいと思います。

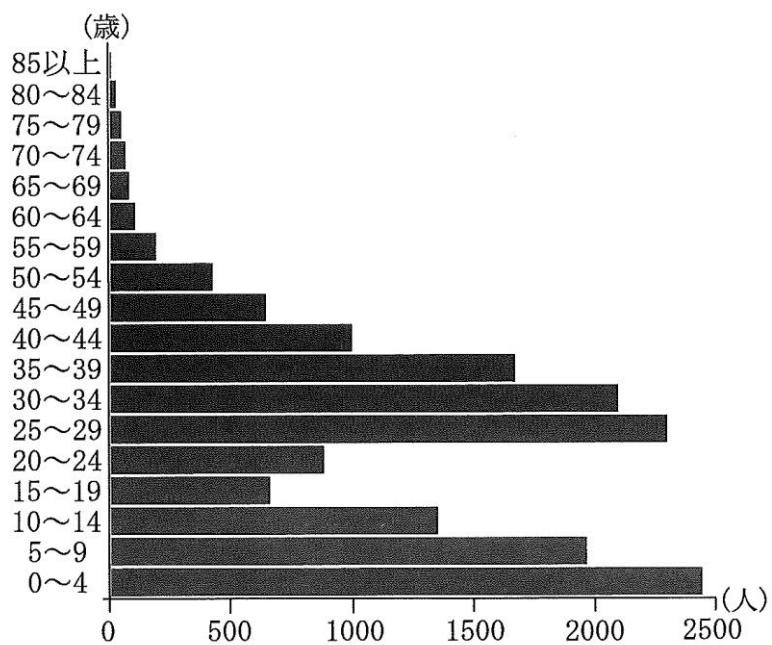
V 地理探究問題

11 ページの図 1 は、1963 年補測調査の 5 万分の 1 地形図(原寸大)である。12 ページの図 2 は、図 1 と同範囲における 1979 年修正の 5 万分の 1 地形図(原寸大)である。これらの地形図をみて、問(1)~(6)に応えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。

問

- (1) 図 1 中の破線で囲まれた集落 A と集落 B は、それぞれどのような地形上に立地したと考えられるか、A については解答欄①に、B については解答欄②に答えよ。
- (2) 図 2 中の D の範囲は、この都市における CBD(中心業務地区)だが、そのことは地形図上のどのような情報から判断できるか、解答欄①に述べよ。また、この範囲は江戸時代にはどのような場所であったか、解答欄②に答えよ。
- (3) 図 1 中の「おおいた」駅から北に伸び西へ曲がる軌道は、図 2 の時点では変化している。こうした変化が生じた一因には住民のライフスタイルの変化があるが、それは何と呼ばれるか、答えよ。
- (4) 図 2 中の E の「工業団地」は既成市街地における都市問題の軽減等のために 1963 年から建設され、多様な業種の中小工場が入居した。この都市問題とはどのようなことか、40 字以内で述べよ。
- (5) この都市は、高度経済成長期の国土計画(全国総合開発計画)で開発拠点に指定されたことを機に大きく変化し、図 2 中の C 付近に製鉄所および石油化学コンビナートの建設が進んだ。こうしたコンビナートが C 付近に立地する利点は何か、40 字以内で述べよ。
- (6) 図 2 中の C 付近の製鉄所の創業にあたり、図 2 中の F 付近で社宅を含む住宅地が建設された。図 1 と見比べると、F 付近ではどのような地形の改変が行われたと考えられるか、解答欄①に述べよ。また、下のグラフは、F 付近の住宅地における 1980 年の年齢別人口構成である。グラフから読み取れる入居者の特性について、解答欄②に 40 字以内で述べよ。

強者戦略



資料：梶田真(2011)『人文地理』63巻1号

強者戦略



図 1

強者戦略

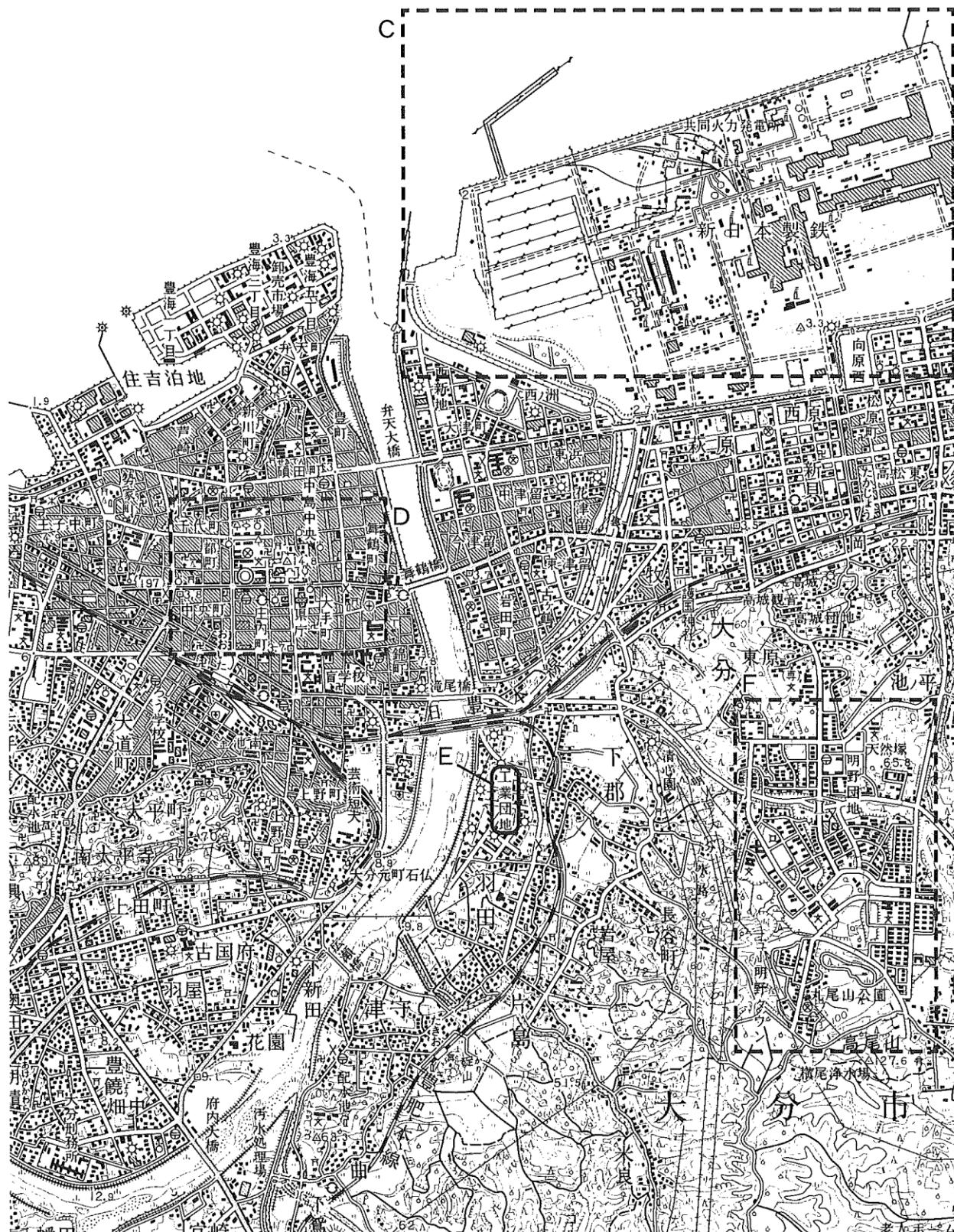


図 2

強者戦略

2025年度 京大地理 第5問 [解答解説編]

【解答】

- (1) ①台地の崖下(台地周縁部) ②自然堤防
- (2) ①市役所、県庁などの官公庁や中高層建物が見られる。
②城下町
- (3) モータリゼーション
- (4) 住宅と工場が近接することによる騒音、悪臭、大気汚染、交通渋滞などの問題。
(36字)
- (5) 臨海部では安価で広大な土地を取得でき、資源の輸入、製品の輸出にも便利である。
(38字)
- (6) ①丘陵地を切り崩してその土砂を谷に埋め、平坦地を造成した。
②工場や都市部で働く子持ちの若年層が多く、高齢者が少なく核家族化が進んでいる。
(38字)

【解説】

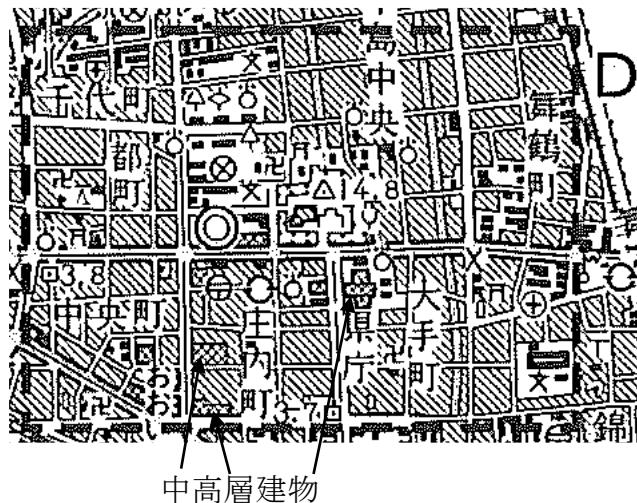
(1) ①② **B** は簡単ですね。共通テスト地理対策もままならない理系受験生ならまだしも、京大を受験しようとしている人なら、かつて蛇行が激しかった時期に形成された、旧河道付近の自然堤防であることは分かることと思います。「自然堤防は河川付近の微高地だと習いました！」というかわいらしい発言は控えてください。河川から離れたところの自然堤防に集落が立地することが聞かれる問題は今までにたくさんあります。やっかいなのは **A** ですね。これがまた等高線を判別しづらい位置にあります。 **B** が自然堤防なので、**A** も自然堤防っぽいですが、違うことになります。**A** の西に丘陵地があるので、台地の上かなとも思いますが、図2では丘陵地の最高峰が 70m あたり、**A** 付近の標準点(大分元町石仏付近)が 8.8m なので、台地の上とは言いがたい。となれば、台地の崖下(台地周縁部)が最適でしょう。台地の崖下(台地周縁部)では湧水帯となっているため、集落が成立する背景となります。

(2) ① 中心業務地区は政治と経済の中心地に当たっているので、両方指摘してあげられればベストです。恐らく、市役所、県庁、裁判所、税務署、官公署などを指摘した受験生が多かったと思います。これでも正解ではないかとも思うのですが、経済機能も指摘することは可能です。やや盲点ですが、図2の地形図は 1979 年のものなので、共通テストで出題されるような最新の地形図ではありません。なので、古い地形図の地図記号には慣れていないと思いますが、両斜線で描かれている建物は中高層建物と分かります。地価が高い中心地では、狭い面積を活かすために商業施設の高層化が見られます。つまり中高層建物が商業の活発化を表していると判断できます。

② 慣れている受験生なら、きっと城下町が解答だろうなと思ったでしょう。江戸時代ですね。ということで、城跡の地図記号を探します。図2の市役所の地図記号のやや右

強者戦略

に描かれています。14.8m の三角点の南です。いつも思っているのですが、城跡の地図記号は、もっと大きくて良いのではないかと。交番と同じ大きさってかわいそうじやないですか？あと、城下町でないとして、大きな道に沿って成立していれば宿場町と答える場合もあると思います。



(大分県庁は 16 階建てで、屋上にヘリポートあり！)

(3)図 1 中の軌道の見えにくさから、一体何を表していたのかは判然としないかもしれません、図 2 では普通の道路になっているので、かつての鉄道(貨物列車含む)、路面電車の何かが廃止されて、現在の道路になったと考えられます。スムーズな道路交通が行えるようになったはずなので、解答はモータリゼーションしかりえません。ちなみに、図 1 中の軌道は、かつて大分県大分市の大分駅前から別府市の龜川駅前までを、国道 10 号線に沿って結んでいた大分交通の軌道線で、通称「別大電車」です。末期まで黒字経営でしたが、バス・乗用車の発達に伴い、国道 10 号線の混雑が問題視されるようになり、大分県の要請を受けて 1972 年に廃止されました。

(4)問題文を丁寧に読み込みましょう。「既成市街地における都市問題の軽減」が目的で「E の工業団地」が建設されたわけです。もう少し踏み込んでみましょう。「既成市街地に中小工場が点在しております、そこで人々が感じていた都市問題を解消すべく、やや人口集中地から離れ、未利用地が広がっていた E に多様な業種の中小工場が入居させた」となります。結局は、もともと住宅地に工場があったということ、そのことで都市問題が発生していたことを中心に書けば良いということになります。国語の問題みたいですが、上記の下線部の部分を加味して解答を書ければ良かったんじゃないかなと思います。

(5)図 2 の C の範囲は、干潟が広がる臨海地域が新日本製鉄の工業用地に変わっています。臨海地域の重工業開発がなぜ進んだのかを書けば正解となります。安価で広大な土地、水利の良さ(排水が便利)、資源の輸入に便利、製品の輸出に便利などを書けば大丈夫でしょう。

強者の戦略

(6) ①図1では、もともと山あり谷ありの丘陵地だった明野や高尾山周辺が、図2では社宅を含む住宅地が建設されています。山の部分を削り(切土)、谷の部分に埋めて(盛土)、平坦地を造成したと考えることができます。

②ぱっと見て大体書く内容は分かりますが、うまくまとめるのはちょっと難しいかもしれません。30代前後の若年層が多い、10代未満の幼年層が多い、65歳以上の高齢層はほとんどいない、を書けばいいのですが、何かまとまりに欠けます。ここに「核家族」を入れることを思いつけば、解答の流れはスムーズになります。両親と子供は同居しているが、祖父母は同居していない家族を核家族と言います。丘陵地に開発されたニュータウンなどの住居はあまり広くないので、若年夫婦もしくは子連れの若年夫婦などが入居することが多かったです。現在では、高齢化が進んでいますけどね。

ここまで読んでいただいた皆さん、お疲れ様でした。